

本資料は 2024 年 6 月 6 日付で技術諮問委員会より提出された報告書に対して、NRRC 所長より出した返信レターを参考までに原子力リスク研究センターにて仮訳したものです。正式な報告書は英文版の原文のみとなりますのでご注意ください。

原子力リスク研究センター  
一般財団法人 電力中央研究所  
〒100-8126 東京都千代田区大手町 1-6-1

ジョージ・アポストラキス  
原子力リスク研究センター所長

2024 年 7 月 11 日

ジョン W. ステットカー氏  
技術諮問委員会委員長

件名：2024 年 6 月 6 日付 TAC 報告書「2025 年度 NRRC 研究計画案」

ステットカー委員長

我々の研究計画をレビューしていただく中での議論、および TAC から示された知見に感謝申し上げます。NRRC は TAC の結論と提言について、以下の通り回答する。

## 1. 2025 年度研究計画

掲題の報告書において、TAC は「2024 年度における研究計画の全体的な範囲及び、主要研究分野における個々のプロジェクトの技術目標は、NRRC の短期的、中期的および長期的目標と合致している」と記している。こうした評価をいただいたことを大変ありがたく思う。

## 2. 「議論」セクションにおける各研究活動に対する提言について

特定の研究活動に対する 4 つの提言については、2025 年度以降の研究計画において考慮する。詳細は以下の通りである。

### (1) パイロットプラント PRA ピアレビューから得られた知見の活用

NRRC 研究チームは TAC のコメントを拝承し、パイロットプラント PRA ピアレビューから具体的な研究活動のニーズが明らかになれば、それを反映させて研究活動の優先順位付けと重点化すべき内容を検討する。

## (2) 人間信頼性データ収集

HRA 研究チームは、データ収集方法を電力会社によく理解してもらうことが必要ということに同意する。このために NRRC は、2024 年 3 月、訓練場面での人間信頼性データの収集・分類方法を電力事業者に文書で提示した。我々は NRRC の会議体であるレベル 1PRA サブワーキンググループの活動の中で、電力会社にこのプロセスがよく理解されていること、および、データの収集・分類方法が NRRC 文書の包括的な方法に適合していることを確認していく。

しかしながら、“監査”については NRRC の役割では無い。

## (3) 地震脆弱性の相関関係の評価手法

両研究チームは、一貫した手法の開発を目指す。そのために、各研究チームは独自の強みを活かして研究を進めており、また、互いの研究を調和させるために、定期的に情報交換を行なっている。

## (4) 降下火山灰（降灰）によるリスク

火山噴火の継続時間を検討するために、我々は既に火山噴火事象を国際的に集計した学術論文の調査に着手している。火山 PRA モデルの構築に際しては、降灰事象へのプラントの応答（設計と対応手順）を考慮する。

敬具



ジョージ・アポストラキス（本人署名）